

Ruby City MATSUEプロジェクト2.0

計画策定業務委託プロポーザル [2023年度]

2023/6/1 説明会資料 (補足資料)

想定スケジュール

事業の推奨実施期間は下記の通り。必要に応じて市の予算に反映させるため、10月下旬に中間取りまとめを行うこと。

業務イメージ

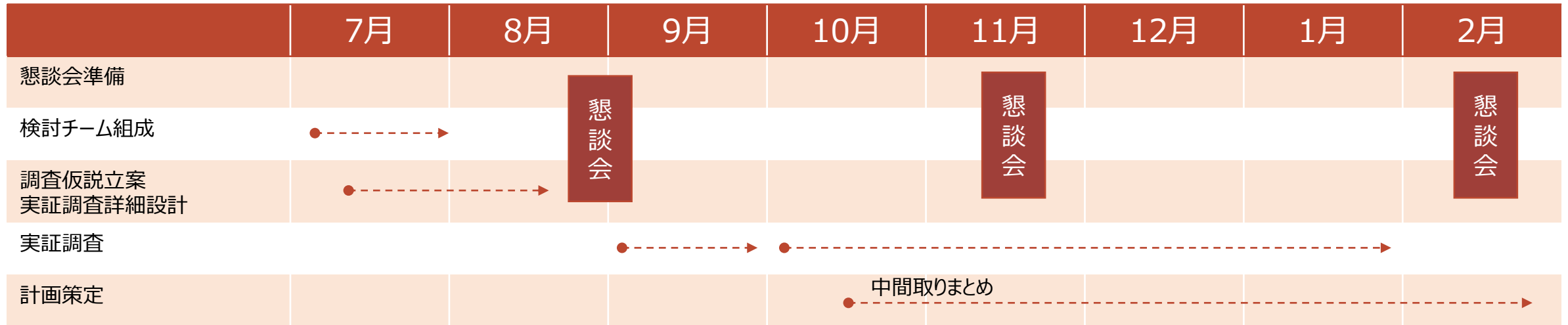
懇談会準備：市幹部、Ruby関係者、経営者その他専門家等による意見交換を実施するための事務局業務。懇談会は下記の時期に3回を予定。

検討チーム組成：計画策定にあたり、市及び受託者とともに具体的な検討を行うためのチームを組成。

調査仮説設計・実証調査詳細設計：実証調査を実施するための調査仮説立案と調査の詳細設計。

実証調査：約1ヶ月の公募期間（実証プロジェクトを実施する民間主体を公募する期間）、約4月の調査期間（プロジェクト実施期間）の統括・運営・実践支援。

計画策定：懇談会、各種調査結果を取りまとめ、具体的な事業計画を策定。



*中間取りまとめ：R6年度以降に行う具体的な事業の概要、方向性

審査のポイント（検討チーム事務局業務）

次期リーダー育成を視野に、20～30代・松江市近辺在住者の推薦を推奨。対象者がエンジニアであるかどうかは問わない。

検討チームにおける被推薦者への依頼イメージ

必須事項：市及び受託者の調査仮説案、実証調査設計案及び計画等に対するコメント、関係者の紹介

任意事項：実証調査へのサポート、実証調査のプロジェクトオーナーとして自ら実施、懇談会へのオブザーバー参加、その他計画の充実に資する内容

推薦にあたって

- ・「Ruby City MATSUEプロジェクトへの一定の理解があり、新規事業開発に対するノウハウや強い関心や実績がある方」を推薦してください。
- ・ 推薦理由を明らかにして推薦してください。また、提案の段階で、本件に推薦することについて被推薦者の承諾を得てください。



松江 太郎（29）職業：エンジニア

背景：大学で情報科学を専攻し、卒業後に市内企業でRubyエンジニアとして働いている。仕事にも慣れ、最近では社外の人、特にエンジニア以外の方との関わりを求めている。

休日は県内で開催されているコミュニティイベントに参加したり、友人とゲームをして過ごしている。副業や地域貢献にも関心があり、たまに考えを巡らせている。

目標：副業やコミュニティ運営など、社外の活動を始めたい。

チャレンジ：これまでプライベートでは関わってこなかった行政の施策に対してコミットメントすること。検討チームへの参画を通じて、自分が今後やりたいことを明確にしていきたい。



島根 和美（31）職業：Webデザイナー

背景：美術大学でデザインを専攻し、卒業後に都市部の企業Webデザイナーとして働き、2年前に出雲市にUターンした。現在はフリーランスとして仕事をしており、「MATSUE起業エコシステム」のコミュニティ「MIX」のイベントに顔を出している。

目標：将来の協業相手と出会い、新しい事業づくりに挑戦したい。

チャレンジ：検討チームへの参画を通じ、様々な人と出会い話し合うことで価値観を変えていきたい。

審査のポイント（調査分析及び実証調査業務）

調査仮説の6テーマに関する補足説明は下記の通りです。

共通事項（基本的な考え方）

- ・ 「Rubyエンジニア以外は参加できないプロジェクト」ではない。Rubyが大切にする「自由さ、たのしさ、コミュニティへの貢献」という価値観をベースにしたプロジェクトとしたい。
- ・ エンジニアファーストの取組であることは変更せず、起業創業・新規事業開発・地元企業との協業などにつながるような施策を展開したい。

新規事業開発・DX

市の課題認識

- ・ Ruby City MATSUEプロジェクトを推進した結果、IT企業の集積が進みましたが、Rubyを活用した自社サービスの開発や地元企業のIT化の加速化には至っていない。
- ・ 開発スピードの速いRubyの強みを生かし、企業の自社サービス開発やエンジニア個人の独自プロダクト開発の支援をしていきたい。
- ・ 市を中心に2022年度から「MATSUE起業エコシステム形成」の取り組みを本格的に開始しており、この取り組みとも連動させたい。
- ・ 松江市としまねOSS協議会が共同で実施している「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト」についても、上記を踏まえてリニューアルしたい。
- ・ 市には、地元非IT企業のDXを推進したい考えがあるが、大企業のように自社内にエンジニアを採用するようなDXの進め方は難しい。
- ・ また、従来通りの受託型開発をベースにIT化を進めていくだけでは単価が合わないため、何かの工夫が必要。

提案への期待

- ・ Ruby City MATSUEプロジェクトが大切にしてきた、「エンジニアへのリスペクト」を継承しつつ、地域でITの力を使った新規事業開発（スタートアップ、アジャイル開発、スモールビジネス）をどのように支えるべきか、考え方とともにアイデアの一例や参考になる先進事例の提案を期待しています。
- ・ 松江オープンソース活用ビジネスプランコンテストのリニューアル案も合わせてご提案ください。

審査のポイント（調査分析及び実証調査業務）

調査仮説の6テーマに関する補足説明は下記の通りです。

海外展開

市の課題認識

- ・「Rubyを軸にした海外へのゲートウェイ」を実現したいと考えている。
- ・現時点では、松江市はインド ケララ州や台湾と経済交流を進めており、海外とのつながりの拡大・関係深化を図っていききたい。

提案いただきたい内容

- ・「Ruby」をキーワードに、松江市と海外の都市とがつながってビジネスを促進させるために、考え方とともにアイデアの一例や参考になる先進事例をご提案ください。

人材育成

市の課題認識

- ・全国に先駆けてIT人材育成に力を入れて進めてきたが、義務教育課程でプログラミング教育が始まり、高校教育では情報1が必修化されるなど、状況が大きく変わっている。
- ・学校教育外でさらに学びたいという生徒・学生に対して科学・技術・プログラミングに触れることができる場合は、現時点で十分提供できておらず、裾野拡大の取り組みを行いたい。
- ・一方で、新たな技術や未知の領域に挑戦したいと思うIT人材を増やすためには、学びと合わせて起業家精神を養うことも必要と考える。

提案いただきたい内容

- ・義務教育課程（15歳以下）に向けた人材育成施策のアイデアと、高等教育課程（16歳以上）に向けた人材育成施策の考え方とともにアイデアの一例や参考になる先進事例をご提案ください。
- ・なお、学校教育課程外の施策をイメージしていますので、教育課程内の施策アイデアは特に必要な場合のみご提案ください。

審査のポイント（調査分析及び実証調査業務）

調査仮説の6テーマに関する補足説明は下記の通りです。

人材交流

市の課題認識

- ・ 松江オープンソースラボは、エンジニアのための交流拠点として設置・運営してきた。
- ・ 近年は市内にコワーキングスペースなど、コミュニティ活動の拠点として利用できる民間施設も増えていること、現在は制限している有料イベントでの利用に対する希望もある。
- ・ 今後、松江オープンソースラボをどのような拠点として運営していくか、方向性を検討していきたい。

提案いただきたい内容

- ・ 現在のルールに縛られず、松江オープンソースラボをどのように活用・運営していくかについて、考え方とともにアイデアの一例や参考になる先進事例をご提案ください。

企業誘致

市の課題認識

- ・ Ruby City MATSUEプロジェクトを掲げ、ソフト系IT企業の誘致を推進してきた。今後は地元企業との協業や連携が可能な企業の誘致にも力を入れたいと考えている。
- ・ また、「本社機能は松江市にありつつも、開発拠点は全国にある」など、リモート中心の新しい働き方を前提に、ソフト系IT企業の誘致に関する考え方も再考したいと考えている。
- ・ 従来の雇用拡大を目的とした企業誘致に加え、地元企業の付加価値向上に繋がるような企業誘致施策も検討を進めたい。

提案いただきたい内容

- ・ 上記を踏まえつつ、考え方とともにアイデアの一例や参考になる先進事例をご提案ください。